

# 平成28年度 宇部市の学力向上のための取組

宇部市教育委員会

宇部市教育委員会では、全国学力・学習状況調査（文部科学省）、やまぐち学習支援プログラム学力定着状況確認問題（山口県教育委員会）の結果を分析し、「宇部市学力向上推進プロジェクト委員会」で、平成27年度の実践の検証と今後の取組について協議を行いました。協議内容は以下のとおりです。

## 1 宇部市学力向上推進プロジェクト委員会の報告

### (1) 平成27年度の実践の検証

#### ①「学び合い」のある授業づくり

市内全小中学校で、「学び合い」のある授業づくりが進み、各校で授業公開が進んだ。子どもが共に学び合い、課題を解決していく授業の仕組みや、授業の質の向上に関する校内研修（授業研究）によって、授業改善が進んだ。

#### ②中学校教諭の乗り入れ授業

平成27年度から中学校教諭の乗り入れ授業を全ての小学校で開始した。この乗り入れは、単なる出前授業的なものではなく、年間を通して計画的、継続的に実施している。小学生がよりレベルの高い教科指導を受けることや、中学校教諭が中学校へ進学してくる児童の学習状況を把握することなど小中連携による学力向上のための実践が可能となった。

#### ③ICT教育

学習環境の整備として、宇部市ではICT教育に力を入れている。平成27年度から、全小中学校に1クラス分ずつ、タブレット端末を導入し、各教科で活用している。基礎基本の定着や英会話などのコミュニケーションツールとして児童生徒の主体的な学習活動を支えている。

#### ④図書館等支援員

読書活動の充実に向けて、宇部市では、平成27年度から、「図書館等支援員」を全小中学校に配置した。これにより図書室での読書環境が向上し、子どもたちの読書量増加につながっている。

#### ⑤「コミュニティ・スクールの機能を活かした学力向上への取組」

前年度の協力校での取組をふまえて、宇部市では、「コミュニティ・スクールの機能を活かした学力向上への取組」を全小中学校に投げかけた。宇部市共通の重点取組を「メディアコントロール」として、学校・家庭・地域が連携した、児童生徒の生活習慣向上への取組や、中学校区での小中連携による共通の取組、各校独自の取組も進めた。

## (2) 現状の学力課題と指導改善のポイント

調査部会から宇部市が今後取り組むべき各教科の主な課題に対する指導改善のポイントの報告がなされ、教育委員会で以下のようにまとめました。

### 【小学校】

教科	課題が見られる項目	指導改善のポイント
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇漢字を正しく読んだり書いたりすること</li> <li>◇表現の工夫を捉えること</li> <li>◇登場人物の気持ちの変化を想像して音読を工夫し、工夫について説明すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「書く」ことを大切に、すべての教科、すべての活動において、正確に丁寧に書くことを指導する</li> <li>◆書いた文章を読み返し、文や文章の中で果たす漢字の意味を捉えた上で、正しく使用しているかどうかを評価する活動を取り入れる</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇示された情報と図形の性質を関連付けて説明すること</li> <li>◇割合の意味（基準量、比較量、割合の関係）を正しく捉えること</li> <li>◇示された考えを基に、根拠となる事柄を過不足なく記述すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日常の事象と図形の定義や性質を関連付けながら考えたり、説明したりする活動を設ける</li> <li>◆割合の考え方を含む学習内容の系統性を意識して指導する</li> <li>◆数学的な表現を用いて、必要な事柄を過不足なく記述する場を設定する</li> <li>◆発展的な課題に取り組ませる</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇顕微鏡の操作方法（生命区分）</li> <li>◇メスシリンダーの扱い方（物質区分）</li> <li>◇物質が水に溶ける量をグラフから読み取り（物質区分）</li> <li>◇方位についての情報から観察している方位を特定（地球区分）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆実験観察前の説明においても実験の意味や手順、機器の名称などについて確実に習得させる</li> <li>◆直接目に見えず実感しづらい量については、モデル等を用いながら説明するなどして実感をもたせる必要がある</li> <li>◆地図上の位置と自分の位置の関係など視点を変更したり、鳥かんのものごとを見るなど空間把握を伴う内容の学習をすすめる必要がある</li> </ul>

### 【中学校】

教科	課題が見られる項目	指導改善のポイント
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇伝えたい事柄が読み手に効果的に伝わるように書くこと</li> <li>◇様々な言葉に触れて言語に関する知識を増やし、適切に使うこと</li> <li>◇文章や資料から自分の意見を述べるために必要な情報を取り出し、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くこと</li> <li>◇伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆情報を共有している読み手と不特定の読み手とを想定して書く場合の工夫の違いを検討する学習活動を行う</li> <li>◆専門的な言葉など、多くの言葉に触れられるよう、様々な分野の本を読むことを課題とした読書活動を推進する</li> <li>◆学習した言葉（文法や表現技法含）を生活に生きる場で活用する機会を設ける</li> </ul>

数学	<p>◇割合や単位量の意味理解</p> <p>◇空間における直線や平面の位置関係の理解</p> <p>◇帰納と演繹の違いを明確にし、証明の必要性和意味について理解すること</p> <p>◇考え方や理由を数学的な表現を用いて説明すること</p>	<p>◆数量の関係を見つけたり、具体的な数値を用いて式化したりするなどの機会を増やす</p> <p>◆「かく」「つくる」などの数学的活動の充実を図り、理解を深める</p> <p>◆推論の過程などをわかりやすく表現する機会を増やす</p>
理科	<p>◇質量パーセント濃度の作り方(化学的領域)</p> <p>◇実験結果の分析から物質を特定(化学的領域)</p> <p>◇露点の測定の活用(地学的領域)</p> <p>◇凸レンズによってできる像の規則性(物理的領域)</p> <p>◇音の高さの変化と波形の特徴(物理的領域)</p>	<p>◆質量パーセント濃度の測定や露点の測定と活用のように抽象的な量を扱うとともに、小数や分数の計算を必要とする問題に対する問題に課題がある</p> <p>◆抽象的な量をモデルなどを用いて実感的に理解させるとともに、公式の意味を理解させる必要がある</p> <p>◆基礎的な計算力も付けていくことが必要となる</p>

#### 【生活状況】

課題が見られる項目	指導のポイント
◇平日の家庭学習時間	<p>◆小中連携による「共通実践」 児童・生徒にとって落ち着いた居場所づくり、授業改善等</p> <p>◆メディアコントロール 正しい“時間”の使い方をコントロールする見通しをもつ、優先順位を正しく判断する</p> <p>◆コミュニティ・スクールの質の向上 地域の“人”とのつながりの強化</p> <p>◆総合的な学習の時間の活性化 児童・生徒にとって、将来必要となる力をつけるための流れをつくる 自分で調べてまとめ、発表する力(図書館の活用) 自ら考え、判断して行動する力(自己肯定感を高めるために) 他人の“よさ”に気づく力(自己有用感につながる)</p>
◇休日の家庭学習時間	
◇平日の読書時間	
◇家庭学習での授業の復習	
◇地域行事への参加	
◇総合的な学習の時間の自発的な活動	

## 2 平成28年度学力向上のための取組

宇部市学力向上プロジェクト委員会との協議を経て、宇部市教育委員会では、平成28年度の学力向上のための取組を次のように決定しました。

### (1) 宇部市の学力課題

- ①基礎基本の定着に差がある
- ②自分の言葉で文章を書くことを指導する必要がある
- ③既習事項を活用して課題に取り組む力をつける必要がある

### (2) 課題解決に向けた取組

子どもたちが抱える課題を解決するためには、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たし、社会総がかりで子どもの学びと育ちを保障することが重要です。

宇部市では、市内全小中学校をコミュニティ・スクールに指定し、地域とともにある学校づくりを推進していることから、学校、家庭、地域が連携して、「小中一貫の取組」「授業の質の向上」「地域人材の活用」「家庭学習時間の確保」を柱とした学力向上の取組を推進します。

#### ①小中連携・小中一貫の取組

- ・課題を共有する全校体制づくり
- ・小・中学校が具体的に系統性を踏まえ課題を共有し、連携した取組を実践すること
- ・9年間で「つけさせたい力」の整理
- ・小中学校9年間を見据えた学習規律の徹底

#### ②授業の質の向上

- ・学び合いのある授業づくり
- ・授業評価による授業改善
- ・読書活動の充実による、語彙力や表現力の醸成
- ・ICTを活用した授業づくり（オンライン英会話、デジタル教科書の導入など）
- ・少人数の指導の工夫・改善

#### ③地域人材の活用

- ・やまぐち学習支援プログラム等の積極的に活用できる環境整備
- ・中学校教員による小学校への乗り入れ授業
- ・小学校教員による中学生の補習
- ・学習ボランティアの活用

#### ④家庭学習時間の確保

- ・生活習慣の指導徹底（あいさつ・言葉遣い・時間を守る・自ら考え正しく判断する）
- ・メディアコントロール
- ・中学校を中心とした「家庭学習強化週間」などの計画的実施
- ・辞書がいつでも使用できるような言語環境をつくる